

「zoom 美術サロン」の開催について

私達は通常、毎月第 2 週(火曜日)の午後、近作を持ち寄って、作品の合評会を行う「美術サロン」という活動を行っています。この 1 年間、コロナ禍によって集うことが出来なくなり、「美術サロン」は休止せざるを得なくなりました。会員の中から、この状態が 1 年以上続いています。会員の中から「描いた作品を仲間に見てほしい」、「仲間の作品を観たい」という声が上がりました。そこで、オンライン会議などに使われる「zoom アプリ」を利用して、作品の合評会を行う事にしました。つまり、zoom を使ってオンラインで「美術サロン」を行うのです。これを「zoom 美術サロン」と呼ぶことにいたします。

(1) zoom を使った合評会の仕組み

会員 82 名の中から「zoom 美術サロン」への参加希望者を募ったところ、27 名が手を挙げてくれました。予想以上の希望者でした。

第 1 回「zoom 美術サロン」は去る 3 月 27 日(土)午後 3 時から、事務局(喜田祐三)がホストになって 20 名の参加者により行われました。

ご存じのように、zoom には「画面共有」という機能があります。第 1 回目の今回は既に実施した、第 1 回「WEB 展」及び第 2 回「WEB 展」の出品作品を使って合評会を行いました。

「画面共有」機能により参加者は各自の PC 画面上に 1 枚の作品を参加者全員が共有して、合評を行います。

まず、作者が作品の ①制作意図 ②苦労した点 ③作品の特徴について説明します。

その後、ホストの司会で参加者が思い思いの意見を述べ合います。

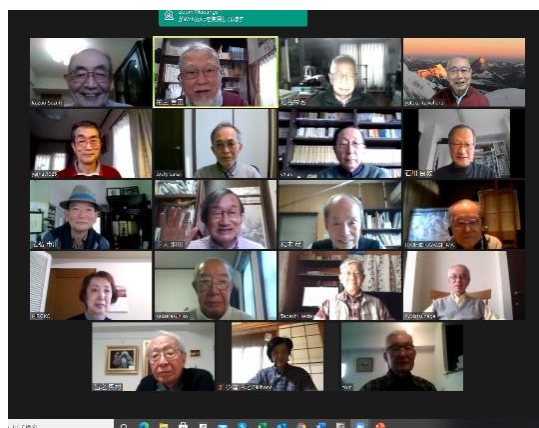
(2) 「zoom 美術サロン」の実際

下の写真は 1 例として、桑原会員の作品「Lac Blanc (白い湖)」F30 号を画面共有して、合評しているときの PC 画面です。左の写真は「参加者全員の顔が映し出された zoom 画面」です。

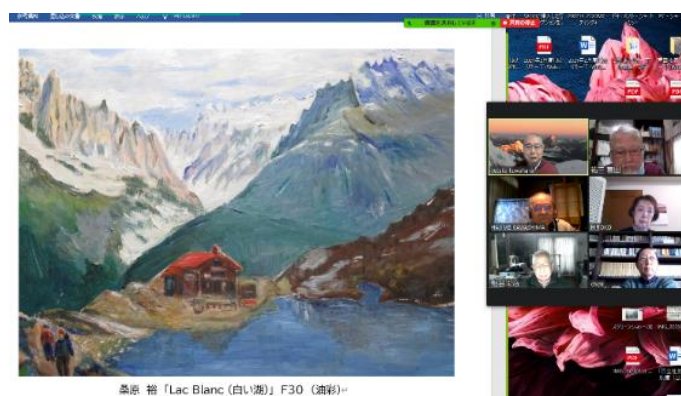
「zoom アートサロン」の最大の特徴は自宅の書斎から「日立美術会」の仲間と対面形式と同様に 1 枚の作品を観ながら、合評や美術談義が出来るということでしょう。

高齢者の私たちにとって、コロナによる自粛のために、対面で集まることが出来ない今、オンラインで仲間と作品を眺め、意見交換ができるということは貴重です。

この「zoom 美術サロン」はコロナ収束後も随時、継続する価値があるのではないかと思います。



第 1 回「zoom アートサロン」出席者の顔ぶれ



桑原裕会員の「Lac Blanc」合評中の画面

以上